

同窓会ニュース

2010年度修道学園（中・高）同窓大会を振り返って

2010年修道学園同窓大会 世話人代表
内藤 貴明（高54回）

2010年度修道学園同窓大会が多くの来場者のもと成功裏に終わりました。

改めまして皆様にお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

我々54回は、昭和58年・59年生生まれの赤バッジです。当時、モーニング娘。・MD・携帯電話・PHS・ルーズソックス・コギャルといった言葉が飛び交っておりました。中学生のころはクーラーのない教室でしたが、高校時代にはクーラーの効いた教室で授業を受け、学食は旧体育館2階の味と新校舎1階の味で育った学年です。

また、中学生の時、自転車通学者はしっかりヘルメットをかぶっておりましたし、伝統でありますマラソン大会も走りましたし、体育祭では6年生の演目である仮装行列にも、しっかり熱をいれました。先輩から受け継いだ伝統をしっかり継承した学年です。

そんな54回が卒業9年目に、同窓大会の世話役という大役を仰せつかりました。あまりに荷の重い大役に、腰がひける同期もおりました。しかし、我々54回の思いは1つでした。

やるからには絶対に成功させたい！

同窓生のみなさんに喜んでほしい！

伝統ある修道が広島に君臨していると外部にアピールしたい！

歴史に残る同窓大会にしたい！

そして何より、

【修道を卒業して良かったと思える時間を共有したい】

個々に思いは違えど、走り始めた54回の思いは、字のごとく「猪突猛進」でした。

53回先輩からのバトンを受取り、走り始めた同窓大会の企画会議。

集まりはしたけれど、何をしたいのかわから

ない・・・広島に何人の同期がいるかわからない。何も対策を打てないので先輩からガンガン怒られる・・・という悶々とした日々を過ごしておりました。

そんな中、私が学生のころに行われた関東修道会総会で、目の前で見た吉川晃司先輩のライブパフォーマンスが脳裏をかすめました。吉川先輩の男気あふれるライブパフォーマンスに一種の衝撃を覚えました。その衝撃は、参加されていた多くの同窓生も同じように感じられたはず。なぜなら、みなさんの顔が「笑顔」だったから。

その「笑顔」という花を広島でも咲かせたいと強く思うようになりました。同期と幾度となく会議を重ね、やはり広島の同窓大会を盛り上げるためには、「笑顔」という花を咲かせるためには、吉川先輩のお力を借りるしかないという結論に至りました。

多くの諸先輩方のご協力のもと、吉川先輩にアプローチをし、我々が抱く熱い熱い思いを先輩にお伝えしました。もちろん、出演が叶わないことも想定にはありました。

しかし、吉川先輩の一言は、

「かわいい後輩が言うて来てくるんじゃけえ、ぜひ一緒に頑張ろうや！できることは限られとるけど、精一杯やるよ！」

この言葉を聞いた瞬間、「修道でよかった！修道ってすごいなあ」正直な感想です。

吉川先輩の出演OKが出た以上、下手な演出ができない、来場者が少ないなんてあり得ない、予算が足りないなんてありえない。新たな問題が浮上し始めていました。

同窓大会2か月前、4のつく会を行いました。この会議では、怒られることが明白な会議でした。なぜなら、今年度の予算に対し、「0」が1桁足

りなかったからです。出席した同期が危機感を覚えたことはもちろんのこと、何より4のつく会の先輩に心配の種を残す形になってしまいました。

ここからが、我々の見せ場！なず・・・でした。危機感を覚えれば、もちろん行動しますし、助けも求めるはず・・・同期が結束して。。しかし、想定にないことが起き始めていました。

それは「同期の結束」が強固なものになっていなかったことです。原因はもちろん私にありました。同期の集まりに仕事の関係上参加できておらず、コミュニケーションも取れなくなり、気づけばメールと電話で指示と報告だけを行ういわゆる事務的な関係になっていました。

恥ずかしながら、そんな危機をご指摘いただいたのは、先輩方でした。

正直、きついご指導でした。お酒の場でしたが、ビールも喉を通らないくらい、ましてや酔うことすらできないくらい、厳しく指導されました。

いろんな先輩にご指導いただきましたが、共通することは、

「長い人生、苦しい時も楽しい時も一緒に共有できるのは、同期なんだ！」ということです。

そこから、自分のスタンスを変えました。世話人代表は、自らが率先して汗をかき、頭を下げ、頭を悩ませ、ヘロヘロになる極限まで走り続ける姿を見せることで、同期の士気を高めることを知りました。

ヘロヘロになりつつある私を、同期がサポートし始めてくれたことは言うまでもありません。その中で、何物にも代えがたい強い「結束」を我々は手にしました。

迎えた同窓大会当日。今年は、例年と趣向を変えて、修道の卒業生だけではなく、卒業生のご家族にもご案内をお出ししました。正直、何人の方が来られるのか、料理は足りるのか、混乱は起らないのか、お釣りの用意は大丈夫なのか・・・不安がよぎり、前日はほとんど寝付けませんでした。

林理事長・高木同窓会会長代理・田原校長ほか、多くのご来賓のご出席のもと、同窓大会がスター

ト。至らない点も多くあったかと思いますが、我々に一生懸命のおもてなしをさせていただきました。

懇親の時間、ビール片手に諸先輩からいただいた、叱咤激励の言葉や、お帰りの際、「今日は、ほんまに楽しかった！ありがとう！」と僕に抱きついてくださった先輩の姿に、「喜んでいただけたんだな」という安心感が生まれました。校歌斉唱の際、会場を取り巻く輪が人が多すぎて入りきらず、中央で方を組まれていた先輩がいたこと、本当にうれしい光景でした。肩を組んで校歌を歌うみなさんが、「笑顔」だったことに、1つ成功を確信しました。

同窓大会の世話役を務めさせていただく中、先輩との縦のつながりももちろん強固にさせていただきましたが、同期との結束、この同窓大会で本当に強固なものにさせていただきました。

54回が内部分裂状態にあった時、私を正してくれたのは同期でした。同期の温かい気持ちと、内藤を支えてくれた気持ちに心から感謝です。同窓大会の世話役を通じて、今まで出会えてなかった同期とも頻繁に会うようになり、今では1か月に1度は飲みに出ています。バカを言い、時には喧嘩をし、それでも修道の懐かしさに酒を酌み交わした日々は、貴重な思い出です。

先輩方が歩かれてきた人生という長く広い大きな道を、我々54回が一丸となって人生を歩んでいける喜びを感じています。人生で躓くこともあれば、道を外れてしまうこともあるはず。それでも、修道という学び舎で学び、苦楽を共にし、同じ深紅の赤バッジをつけた54回の絆は永遠のものであると信じています。真っ赤に燃える赤のごとく、いつまでも炎を絶やさない熱き思いを持つ54回でいたいと思っています。

同窓大会運営にあたり、無謀な挑戦を応援して下さった中村副会長はじめ、4のつく会の先輩のみなさん、本当にお世話になりました。

終わりに。私、内藤貴明は修道高校を卒業して誇りです。修道魂を胸にこれからの長い人生を歩んでいきます。

ありがとうございました。修道万歳！！



世話人代表挨拶



32回生母校に寄付



54回世話人挨拶



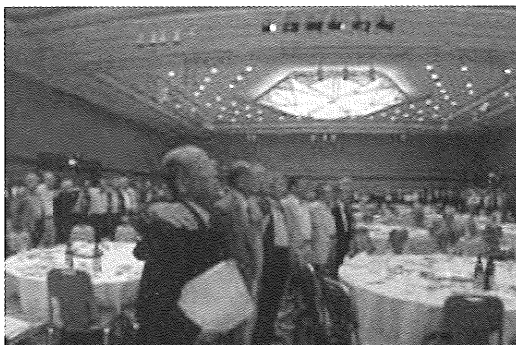
55回世話人挨拶



校歌斉唱



校歌斉唱



校歌斉唱



万歳三唱